

科目ナンバー：(IC)ABR121J		
国際交流（イギリス）		
2 単位	1 年次	コーディネーター 坂本 祐太
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 国際交流（イギリス）は、英国の中心地に所在するロンドン大学アジア・アフリカ研究員（SOAS）が開催するサマープログラムに参加することを通し、英語力強化に加え英語を通じた専門的知識（メディア入門・国際関係論など）の拡充を行うプログラムとなっています。プログラムへの参加のみならず事前学習及びプログラム終了後の成果報告を通して英国の言語・文化・歴史等への理解も深め、日常では得られない新たな視野を養ってください。 ※「2. 授業内容」における【派遣研修】は「3 週（国際交流（イギリス）2 単位）」・「6 週（国際交流（イギリス）2 単位×2 = 4 単位修得）」・「9 週（国際交流（イギリス）2 単位×3 = 6 単位修得）」いずれかを選択し履修することができます。 【到達目標】 ・日本の英語教育において主流となっているアメリカ英語との差異を経験することで「World Englishes」と呼ばれる考え方への理解を深める。 ・専門分野に関して英語で理解し、その理解を応用し発表する能力を養う。 ・異文化（英国）への理解を深める。		
2. 授業内容 【事前学習】 5月～7月頃 第1回 インTRODクシヨン（プログラムの概要） 第2回 英国の文化・SOASに関して 第3回 渡英・滞在時の留意点など 【派遣研修】 ※派遣時期は募集要項をご確認ください。 ※下記は「3 週（国際交流（イギリス）2 単位）」の場合（1 週目） 第4回 英語の多様性<1> 第5回 異文化理解<1> 第6回 専門的知識の拡充<1> （2 週目） 第7回 英語の多様性<2> 第8回 異文化理解<2> 第9回 専門的知識の拡充<2> （3 週目） 第10回 英語の多様性<3> 第11回 異文化理解<3> 第12回 専門的知識の拡充<3> ※「6 週（国際交流（イギリス）2 単位×2 = 4 単位修得）」・「9 週（国際交流（イギリス）2 単位×3 = 6 単位修得）」を履修した場合は、第4回～第12回の授業内容をより多く学習する（現地に長く滞在することになる）。 【事後学習】 10月 第13回 成果報告準備 第14回 成果報告 ※講義内容は必要に応じて変更になることがある。		
3. 履修上の注意 本授業には英国への派遣が含まれており、単位取得のためには参加が必須です。参加費用及び詳細に関しては別途募集要項を参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習の際に準備学習について説明を行います。この授業と関連する科目として「異文化理解」「英語の文化と歴史」「多文化と相互理解」などがあるので、適宜履修を検討してください。		
5. 教科書 特になし		
6. 参考書 木下卓他『イギリス文化55のキーワード』ミネルヴァ書房 指昭博（編）『はじめて学ぶイギリスの文化と歴史』ミネルヴァ書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法 成果報告会を開催するため、その際に適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 事前学習での活動状況50%、研修成果報告50%		
9. その他 履修希望者は必ず別途配信する募集要項を必ず確認すること。		

科目ナンバー：(IC)ABR126J		
国際交流（世界のキャンパスから）〔M〕		
2 単位	1 年次	コーディネーター 横田 貴之
1. 授業の概要・到達目標 本科目は、情報コミュニケーション学部の教育方針に基づいて、みなさんが学際的かつ国際的な問題意識を早期から養うために設置されている。政治・経済・文化のグローバル化現象に伴って、学問はもはや一国単位では成立し得ない。一つの大学というローカルな枠組みに囚われていては、「世界の現在」「社会の現在」に多角的にアプローチすることは難しい。 この授業では、世界各地の様々な大学・研究所・国際機関などで最先端研究や国際業務に従事する外部講師約10名を招聘し（原則オンライン、場合によって対面）、本学部の教員がコーディネーターとなって分かりやすく研究・業務内容を紹介してゆく。みなさんの便宜を図って授業は原則として日本語で行われ、英語等の他言語で行われる場合にも適宜フォローする。また授業の内容は招聘する外部講師の研究・業務内容に応じて毎年更新される。これまで、メディア、音楽、ジェンダー、文学、政治、考古学、と扱うテーマは分野を超えて多岐にわたっている。 みなさんは世界のさまざまなキャンパスで、いったい何が問題として研究され、どのような授業が行われ、どのように仕事として実践されているのかを、日本にいながらにして知ることができるだろう。興味をもった分野を本学部で極めたり、将来的に国際機関で勤務するなどの選択肢もある。是非とも積極的に参加し、主体的に役立てて欲しい。		
2. 授業内容 決定次第、Oh-olMeijiにて公開する。		
3. 履修上の注意 学部1、2年生を対象として想定しているが、3、4年生の履修も歓迎する。授業は原則としてオンラインで実施されるが、授業が対面で行われる場合は和泉キャンパスで行う。また、他学部の履修を認める。 この科目は、原則としてメディア授業科目として開講される。メディア授業の授業形態は、リアルタイムかオンデマンドであり、オンデマンドの場合は原則授業実施回となる水曜日にOh-olMeijiを通じて授業動画を配信する。対面形式の授業を実施する場合は、事前にOh-olMeijiを通じて受講生に詳細を周知する。 なお、各回担当者が課す課題提出をもって出欠をカウントするとともに、受講生の理解度確認を行う。これらは、Oh-olMeijiを通じて行われる。講義全体に関する質問・相談窓口については、初回ガイダンス時に授業コーディネーターへの連絡方法を周知する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新しいセッションの前に、次回のセッションのテーマを予告するので、各自で事前学習を進めておくことが望ましい。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 授業の中での指示に従うこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回、課題に対する講評動画、もしくはコメントを提示する。		
8. 成績評価の方法 セッションごとに課されるリアクションペーパー 100%		
9. その他		